

「子どもに対する暴力撲滅^{ぼくめつ}行動計画」

本当に必要なこと、書かれてる？

(アンケート回)

開催日：2025 年 10 月 27 日（月）～2025 年 11 月 10 日（月）

調査概要^{がいよう}

① 調査テーマ

- ・ 「子どもに対する暴力撲滅^{ぼくめつ}行動計画」本当に必要なこと、書かれてる？

② 調査対象

- ・ 小学校 5 年生～20 代のぶらすメンバー

③ 回収状況^{かいしゅうじょうきょう}

- ・ 回答数：63 件

④ 調査方法

- ・ WEB アンケート調査

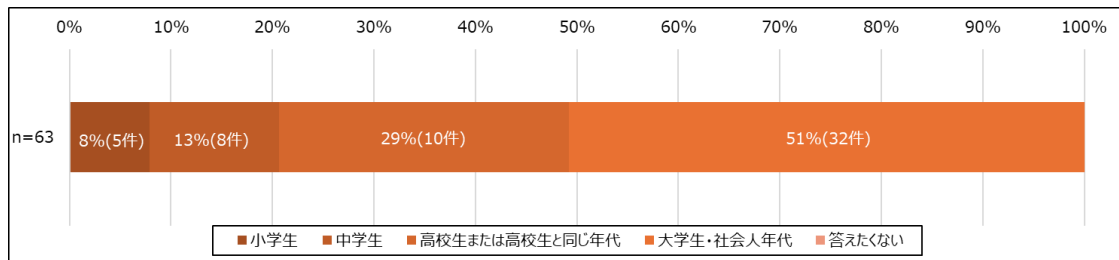
⑤ 調査期間

- ・ 2025 年 10 月 27 日（月）～2025 年 11 月 10 日（月）

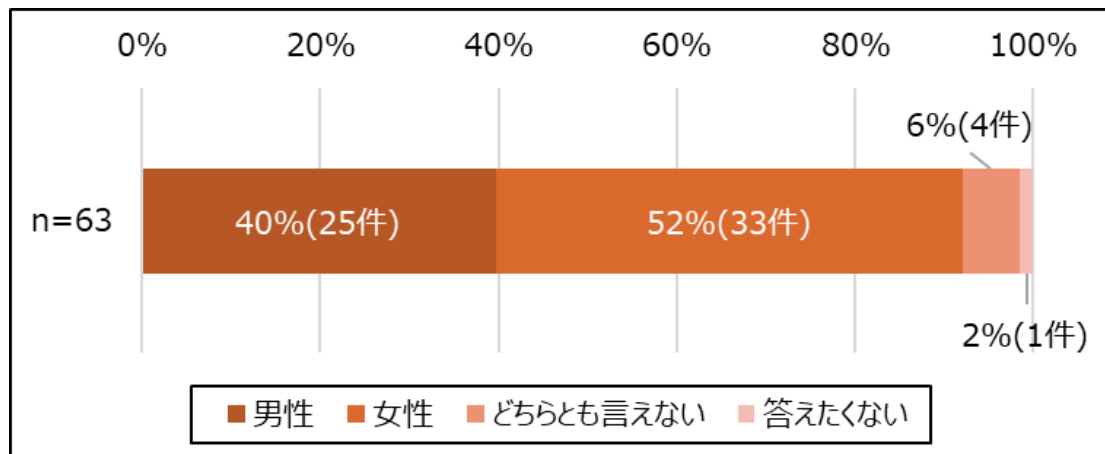
本資料は、いけんひろば参加者個人のご意見を記載^{きざい}したものです。本資料の記載^{きざい}内容は、政府としての見解や評価ではありません。なお、参加者個人の特定や、特定の個人や団体等への直接的な批判^{ひはん}につながる恐れ^{おそ}がある発言については、発言の趣旨を改変しない形で修正しています

調査結果

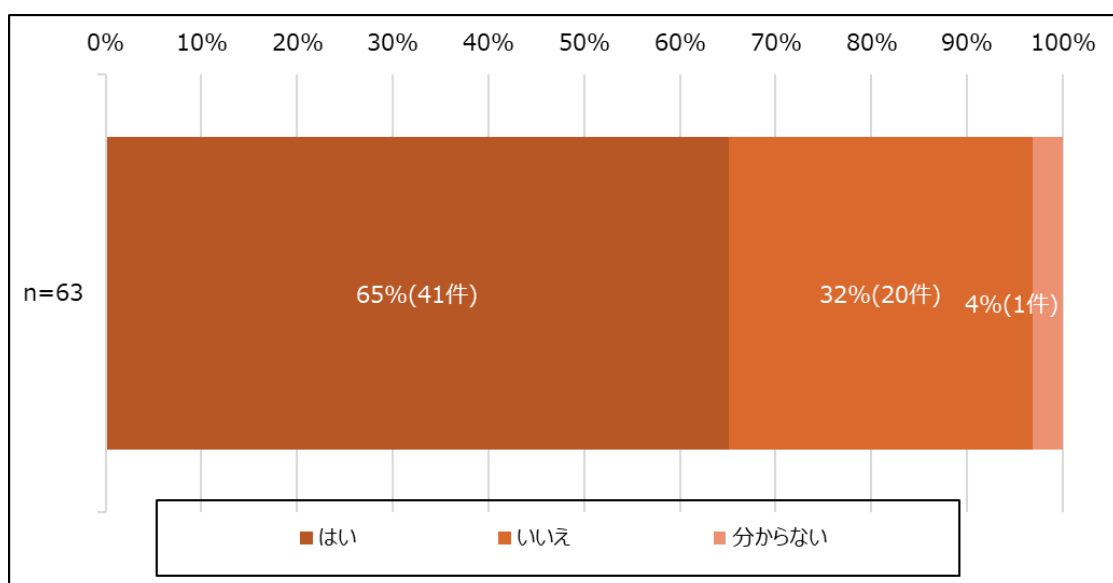
Q1 あなたの年代をお答えください。



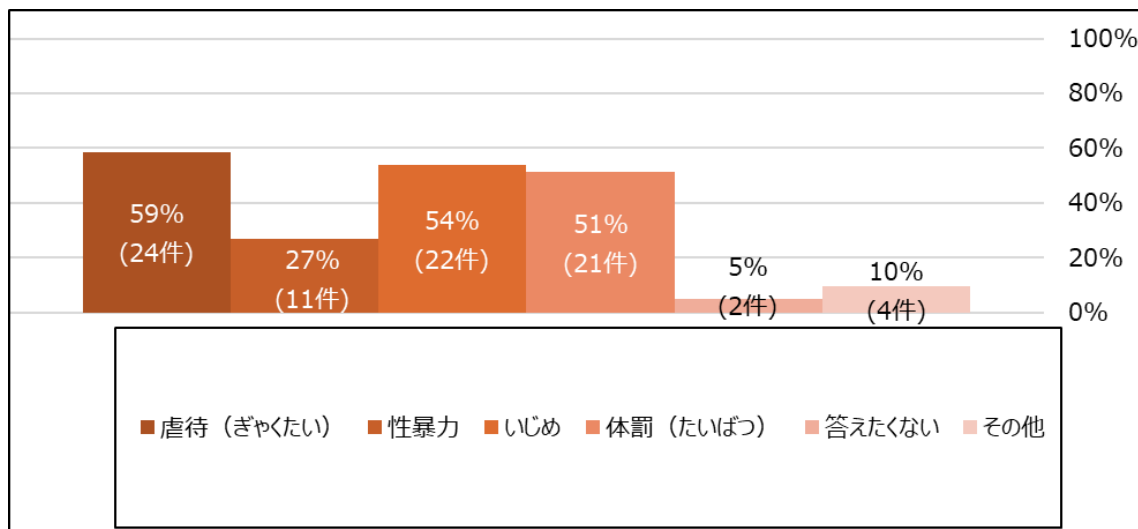
Q2 あなたの性別をお答えください。



Q3 (みなさんやみなさんの周りの人について) 暴力(ぼうりよく)を受けたことや見たり聞いたりしたことはありますか？



Q4 Q3 で「1 はい」と答えた人に聞きます。どのような暴力（ぼうりよく）を受けたことがある・見たり聞いたりしたことがありますか？



その他の回答

- ・ 言葉の圧力や決めつけ
- ・ 虐待まではいかないかもしれない、でもあれは体罰なのか...？という微妙な感じ。されたこと自体は暴力。
- ・ 暴言
- ・ 父が母に無視をする。

Q5 これはこどもに対する暴力（ぼうりよく）だな、と思うこと、感じることを自由に教えてください。

（例：虐待（ぎゃくたい）のニュースを聞いた、いじめを目にしたことがある・・・など）

- ・ 殺されるかもしれないという恐怖心を抱かせる行為をすること
- ・ 生まれたばかりの子に対しての死体遺棄など
- ・ 親が子どもを殺してしまう
- ・ 先生が盗撮や性的被害を加える
- ・ いじめで窃盗など
- ・ 虐待のニュース
- ・ いじめと体罰は高校生の部活動のニュース
- ・ その他は先生からの言葉の圧力や決めつけ
- ・ 新聞やテレビで、子どもが部屋でひとりで置き去りにされているのを発見された、と知った
- ・ 洋服が汚れたままで学校に来た人を見たことがある
- ・ 殴るとか蹴るの暴力ではないけれど、暴力だと思う

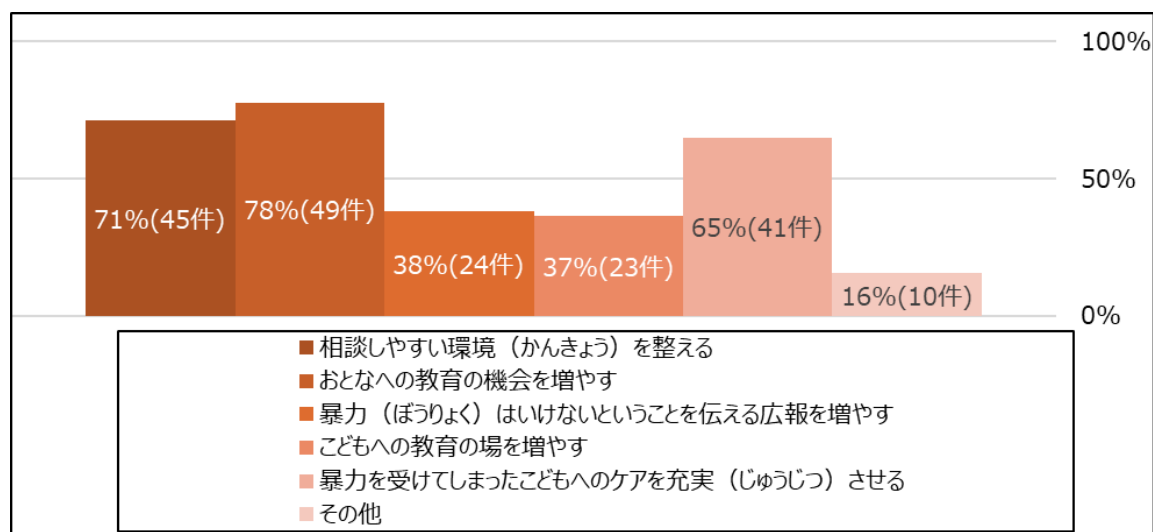
- ・ 友達がほかの友達に殴られたと聞いた
いとこがともだちに殴られたときいた
- ・ こどもに身体的な苦痛を与えること。叩いたり、殴ったりすること。
- ・ レッスン中に『ぶっ殺すぞ』とか指導で怒鳴られる、げんこつや蹴ったりされました。
- ・ 学校でお父さんに叩かれて顔にあざがあった子を見た事がある
- ・ 学校で、教員同士のパワハラを見せつけられた（当時中学生）
 - ・ 父親が母親を殴って言うことをきかせるのは当たり前だと考えている女友達がいた。その家庭ではそのようなことがあったらしいし、実際父親から母親への暴力は、同じ地域内で当たり前だった（2010年代）。
 - ・ 環境的に暴力を受けた母親から、子どもに対してきつい当たりがあった。
 - ・ 教員から人格否定を受けた。
 - ・ 去年、教員たちが職員室で、自分の受け持っている生徒について不適切な雑談（国籍差別、性的ととれる話など）をしていた。
- ・ 虐待はもちろん、「しつけ」という名の暴力、いじめ、性暴力、などなど...
- ・ 子ども間のいじめを見て見ぬ振りすること
- ・ 虐待、いじめ、性暴力のニュース。性暴力やいじめを受けた子どもに対して「子ども側にも原因があった」とするような反応も言葉の暴力だと思う。性暴力関連のニュースで写真が出周りそれに心無い大人が容姿を評価するようなコメントを見たときショックを受けた。
- ・ 教師から生徒への暴言（ぶつとばすぞといった暴力の予言の脅し）
- ・ ニュースでは、時々虐待に関する情報を見ることがあります。また、ネットにはたくさん溢れていると感じています。
- ・ 野球クラブ(スポーツクラブ)での体罰(プレーがうまくいかなかったときの恫喝など)
中高の体育などの着替えて男子は廊下、女子は教室(よく考えたら性暴力で、いまだに私の地域ではこれです、当時の学校の廊下は女子生徒も多く通ります)。
男子は臭いから～といった教師による発言も性暴力だと思います。
- ・ 叩いたり物を投げるだけでなく、心を傷つける言葉での暴力もある
- ・ 暴力・虐待を受けることや、他者が暴力・虐待を受けている場面を目にしまうこと。
- ・ 暴力とはどのようなことか、暴力はいけないことだということを幼い頃から教えていないこと。
子どもの前で暴力をふるうこと。
- ・ ニュースで頻繁に耳にする。家庭でも虐待がなくならないが、保育、教育現場での幼児児童生徒の虐待も増えている。虐待も、身体的虐待、心理的虐待、ネグレクト、性的虐待などさまざまである。
- ・ 生徒同士の暴力的な集団いじめ、
部活動での先輩から後輩への理不尽な暴言を目にしたことある

- ・ 大人から虐待や体罰等で暴力を受けるのはもちろん、子ども同士のいじめや性暴力等についても考えるべきだと思う。
- ・ いじめや体罰に関してのニュース
- ・ 中学時代、教師が体罰、暴力をしていた（対象のメインは自分が顧問の部活動メンバー）
道端で、おそらく親が自分の子供の頭を車のドアで繰り返し挟んで血だらけにしていた
自分が高校へ徒歩登校時、向かいから来たサラリーマンと進路を避け合いになり、向こうがいraft
いたのか、殴られた
- ・ 先生や親が子どもの人格を否定すること。大人がそれを見て見ぬ振りをする。
- ・ 自分がいじめ被害にあったことがある。
- ・ 虐待や部活での暴力といった内容のニュースを聞いた事ある
- ・ これは、とある工業高等専門学校での話です
 - ・ 夏休みの課題提出がなくて、いきなりすべての部屋に行き届くかのような声での暴言を吐き散らす。
 - ・ わからない問題に対しては「帰れ」と言われた。
 - ・ 居眠りしている学生に対して、頭を鷲掴みにして床に強打、そして椅子を蹴飛ばし、「医務室行けっ」と脅し廊下に放り出す
 - ・ レポートの全体評価が低く、教員 A は、「クソレポートめっ」、「腕の筋トレですか？」、教員 B は「心を鬼にして厳しくつけました」と未成年学生のサポートもなく不当な評価をつけられた。
- ・ よくニュースで身体的に虐待について見るけどとえ手を上げなくても言葉で傷つけるものもあるから受け取り側次第だと思う。だからこそ気をつけていかないといけないと思う。
- ・ 小学3年生の頃、休み時間中に男女で言い争い（内容は覚えていない）になり、一人の男子が女子に手を出してしまい、それを目撃した担任が体育？などの副教科のムキムキの男の先生がそれを仲裁した。
その際の手段として、警察の取り押さえかのように、手を後ろに回し、その状態で宙に浮かせる状態、足がギリギリつかつかないくらいで持ち上げて30分から1時間くらい経っていたので、流石に体罰ではないかと感じた。
- ・ ことばだけの場合も含めていじめ、体罰、虐待、厳しすぎる部活動
- ・ 自身がいじめの被害にあったことがある。
- ・ ニュースなどで見たことがある。
- ・ 自分自身が小学生の時に隣の中学から小学校まで引きずられて擦過傷になりました
- ・ 私は中学生の時に教頭先生から言葉の暴力を受けました。かなりヒドイ言葉でした。誰もいない所で怒鳴られたり、耳打ちされたりしました。家族に話し、学校のアンケートなどに書いて校長先生に事情を知ってもらい、距離を置くように配慮してもらいました。教育者であっても、管理職であってもヒドイ事をしたり、言ったりする大人はいるので、なんでそうなのか聞いてみたいという思いで

す。世の中はヒドイ大人がたくさんいます。

- ・ 道端の子連れの人が子どもを殴っていたり、「〇〇しなければご飯抜きにするぞ」と脅していたりすること。あるいは、バイトなどで稼いだ額を親が口座から下ろして勝手に生活費などに当てたり、親が子ども名義で口座を開いた後その子どもが成人後になっても、内緒でその口座を生活費として使い続けること。
- ・ 教員からの体罰(授業中に気に入らない人を走らせる)、親から子どもへの教育的虐待、両親からの面前 DV
- ・ 友だちが言うことを聞かないと家の人に殴られると言っていた
直接殴ったりしなくても、大きな声で怒鳴ったり死ねとか言ったりするのも言葉の暴力だと思う
- ・ 旭川で発生したいじめによる自死のニュースは本当に悲しかった。
いじめは無くさないといけないと強く思ったニュースでした。

Q6 こども家庭庁（かていちょう）では、こどもに対する暴力をなくすための計画を作っています。計画にどのようなことが書かれているとよいと思いますか。

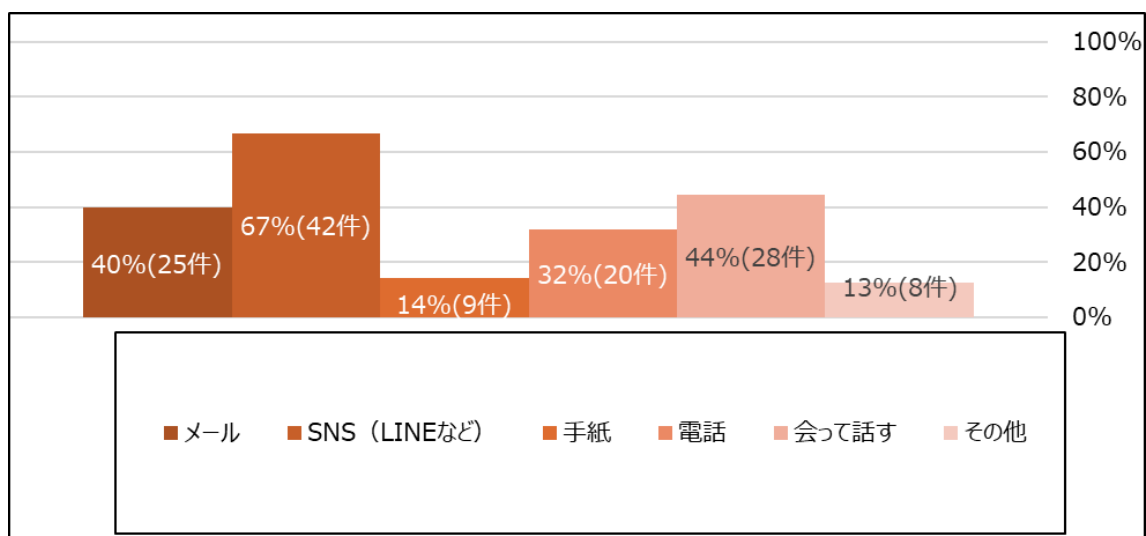


その他の回答

- ・ 自分で身を守り、子どもが自ら逃げられるようにする必要性を子ども自身が理解できるように教育すること
- ・ それが暴力だと自覚していない人に気づかせるようにする。
- ・ 暴力をふるってしまった側が未成年の場合その人物にもケアや隔離処置が必要。また、相談より通報が選択肢に上がりやすいような広報と環境の整備（窃盗を見て相談先を探す人がいないように、子どもへの暴力もその段階まで重要度を上げるべき）
- ・ 暴力をふるってしまった側のケアを充実させる

- ・ 加害者への教育や、2度と被害を起こさせないように対応する
- ・ 暴力とは何か、どうやって助けを求めるのか教える授業を作ること。それを義務化する。
- ・ 暴力を行った大人に対する制裁の強化
- ・ 加害者側の精神や心理をチェックする
- ・ 暴力を振るった人(子供や大人)の再教育や反省を促す場を設ける。
- ・ 自分自身(子ども自身)が虐待されている事に気づいた時にどう行動すればいいのかを書く

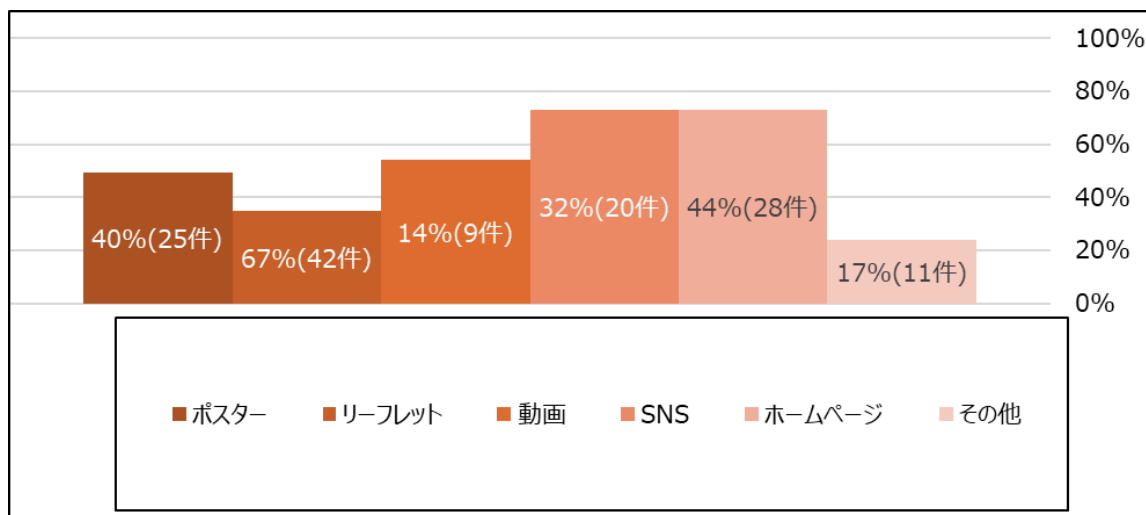
Q7 もしあなたが暴力（ぼうりょく）について相談するとしたら、どのような相談方法が良いと思いますか。



その他の回答

- ・ 話した相手と自分だけの(二者間のみの)秘密として守られる方法
- ・ 暴力を振るってきた相手にバレない方法で
- ・ 交通手段や通信手段が親だよりでその親に知られたくない場合もあると思う。学校や図書館などに相談用の投書箱を設置してはどうか（ただし設置場所の関係者は管理のみで中の閲覧はできない）
- ・ 匿名のホットライン
- ・ 生成 AI
- ・ 学校などのアンケート
- ・ ビデオ会議ツールなどオンライン
- ・ 特に学校について、スクールカウンセラーやスクールロイヤーが定期的に学校を巡回し、直接声かけなどをする

Q8 こどもに対する暴力（ぼうりよく）がいけないということを伝えるためには、どのような広報が良いと思いますか。



その他の回答

- ・ 被害者自身が暴力に対していけないことだと自覚すること。
- ・ 周りで気がついた人がきちんと伝える
- ・ 学校の手紙で配る
- ・ 子どもたちからのメッセージとか
- ・ 電車やバスの車内広告など
- ・ CM
- ・ 授業
- ・ テレビ CM など
- ・ どれもダメだと思う。目を通すかわからないし、通しても感じない人がすると思うから。
- ・ 駅などで広報、テレビで CM
- ・ 広報を見て暴力をやめるような大人は最初から暴力を振るわれないと思います。

Q9 こどもへの暴力（ぼうりよく）をなくすために大人にとくに取り組んでほしいことはありますか。（Q7で回答したことの補足（ほそく）・それ以外でも大丈夫（だいじょうぶ）です）

- ・ 暴力は特別なものではなく、日常にあると受け止めること。
楽しい時間を共有すること、よもやま話をする事
- ・ 自分は大人だから、子供に対して何でもしていいと勘違いしている大人。
教育、しつけのためなら何でもしていい、自分の行いは正当化されると勘違いしている大人。
このような人々が存在しているからこそ、こどもへの暴力が無くならないのだと思います。そのため、法律や子供に権利といった公的なものの観点から、大人に対して呼び掛けていき、自分が子供に対して行える行為の境界を認識してもらう必要がある。
そういった取り組みを行っていただければと思います。
教師への年に1回の講習や、出産届を提出した夫婦へのガイドブックの配布など
- ・ 自分に自信があって、自分が間違っていると思っていない人なので、その人より上の人に訴えたら、すぐに対処してもらうようになると良いと思います。
- ・ 暴力を振るう大人が、困っていることや悩んでいることを解決する→そうすれば、こどもに辛くないのではないかな
- ・ 月のアンケートでも言えない子はいると思うからそういう子への対応を積極的にしてほしい
- ・ しつけと暴力の違いを、親や先生に教えてほしい。
- ・ 駅の転落防止ポスターのように構内や電車内に貼り出す、テレビやSNSで目を引く動画を流す。
- ・ 暴力をしそうな大人を見つける取り組み
- ・ 去年見た国籍差別や小児性愛的な話をしている教員たちは、全くその自覚がないようだった。デリカシーの意識も低く、私も後輩教員の立場でモラハラを受けた。誰でも加害するという事を自覚させたほうがいいと思う。また、教員は特に未成年者と接する機会が多いので、採用時や年度頭などに「どんな行動や考え方が暴力にあたるのか」ということをしっかり共有して、子どもの前や職場で暴力性を出さないように促したら良いと思う。
- ・ ニュースで目にするような代表的なものだけではなく、日常生活に潜むやっと思いがかちなものも取り扱ってほしい。親や子供は駄目の一環だと認識してきても、第三者から見たら暴力だということもあると思う。もしかして自分がしてることで、とドキッとさせるような伝え方が大切だと考える。
- ・ 暴力ではないと思いながら生活していても、子どもにとってそれはとても強い力だと認識できるようにしてほしい
- ・ 何が暴力に当たることなのかを子どもに伝えること。またそれに類することを見た、された場合にどこに通告すればいいか伝えること。
最近ある動画投稿者が連れ子の娘に対する言動がおかしいと話題になっていた。実際に動画を

見ると娘はかなり苦しい状況にあると感じた。行政にはこのような明確な暴力性加害になる前の状態に保護や娘との会話等のケアができる環境としてほしい。彼女のような子を助けるとともにこういった環境のもたらす精神状態が次の加害者となってしまう危険もあると思う。

- ・ 子どもの気持ちと将来への影響を考えてほしい。大人（教師）の暴言は、子どもが暴言を使うきっかけになる、影響が大きいと思う。
- ・ 大人の意識の改革。
- ・ 特に学校の教員は、男子に対する性暴力には気づいていないケースが多いのではと感じます。そもそも男子生徒もそれが性暴力だといまいち気付いていません。後からよく考えたらあの時のあれは～といったことが良くあるので、その辺の意識改革を教える教員の側からしていけないといけないのではと感じます。
- ・ こどもの気持ちに耳を傾ける
暴力をしつけと認識している人の認識を変えるためのフォーラムなど、話を聞いたり発信したりする機会を設ける
- ・ 子どもへの暴力が決して許されないことを認識できるよう、自治体や学校など、子どもとかかわる大人向けに、子どもへの暴力に関するセミナーなどを開いてほしい。
- ・ SNS で発信されている動画などの様子が虐待だと思われたら第三者が通報・相談できる制度
- ・ こどもに道徳の時間などで暴力について学べるようにカリキュラムに入れてほしい。
暴力をふるう原因を探る、考えて対策を練る。
妊娠中の方や、こどもと関わる仕事をする方のために、虐待などを受けて育った大人に暴力はいけないことだということを理解させた上でこどもを育てたり、接したりするように取り組みをする。
- ・ 保護者以外のこどもたちの周りにいる大人が動きやすく、相談しやすい環境作り。こどもへの支援（お金の支給、食堂）をこどもが知る。支給されていることをこどもが知らない、保護者はこどものために使わないのが問題。支給する方法を考え直す。学校、地域（図書館、公民館、習い事、お店）への協力、支援の強化。例えば、家で落ち着いて勉強出来ない子どもが勉強できる環境の提供。字校では SSW を常に配置する。（1 日や数日では児童生徒の実態や様子は分かりにくいと思う。）児童生徒が放課後により、相談しやすい場所作り。
- ・ 加害者の罰則
加害者と被害者との接触を遠ざける
- ・ 世の中の全ての人（大人も子供も）に暴力はどのような事があっても、絶対にいけないと言う事を広く広めて欲しい。
- ・ こどもの SOS に早期に気づくことができるかが大切だと思う。
- ・ 感情的になっても、こどもの話を最後まで聞いてくれるようなマインドコントロールのようなものができるようになってほしい。

- ・ 学校教師への指導
相談窓口の拡充
暴力事件の場合、警察に相談しやすいようにしてほしい
街の防犯カメラを増加
子供を大切に作る空気が必要
- ・ 暴力について学んで欲しい。暴力を振るってしまうほどのストレスがある場合、そのケア
- ・ 子どもに対する暴力の厳罰化と小規模児童相談所における児童心理司の配置の推進
- ・ どんなことが暴力に当たるのか、虐待などの知識などを身につけて欲しい
- ・ 高等専門学校の場合は、未成年学級というシステムを導入し、指導者は、「高校や工業高校」で指導歴がある者のみ担当とさせる。暴力を犯した場合は「アカハラ」として扱い、未成年に対しては学会経由で厳重な処分をする。
- ・ どのような言葉で傷つくのか学んでほしい
また、辛くなったら子どもに当たるのではなく相談することが大切だと伝える
- ・ 子どもへの暴力は許されない事を、子ども達自身に小さい頃から知って欲しいです。
ただ、「いけない事です。」という伝え方では逆に周囲に伝えるにくなる子どもがいます。そのため、「そういう事があつたら、1人で抱えずに教えて欲しいし、一緒に考えたい。」というのを伝えて欲しいです。
幼稚園・小学生にも年齢に合わせた性教育は、子どもを守るために非常に重要だと思います。
- ・ こどもへの意味のない暴力に対する罪は刑法の面から厳罰化するべきだろう。
また、子どもの保護も同様に「一時保護」を撤廃して、子どもから要望があれば、独立（高校で寮に入る、一人暮らし）するまでは親との縁を切って児相で暮らすことまでしないと子どもは悲惨な目に遭いかねない。またここまでしなければ大人も子どもの大切さに気付かない。暴力はまた繰り返し起こることもある。
ここまで環境を構築しなければ大人はわからない、そして子どもの未来は絶望的と言っても過言ではない。
子どもに暴力をする大人というのは、自身が痛い目見ないと分かんと思うので、暴力（性暴力含む）の程度に限らず平等に「無期懲役」にするなど厳罰化をしなければならない。
- ・ 叱ると怒るは違う。暴力は違うということ。
- ・ 子どもの育て方を考える。
大人がなぜ、そのようなことをするのか考えることができるように聞いてくれる役割の大人を設置する。

- 暴力の連鎖を断ち切るためにも、虐待を受けた大人がまた虐待をしないようトラウマインフォームドケアを基盤とした学習機会を設けて欲しい。

また、虐待は 18 歳で終わるわけではなく、18歳を越してもなお、虐待が継続するケースもある。だから、DV と同様に親や兄弟と「離れる」ための支援をして欲しい。18歳後も続く虐待として、経済的虐待（育てた時にかかったお金を返せと言われて返済を求められるなど）、物理的束縛（位置情報を定期的に知らさなければ怒られるなど）、心理的虐待（私だからこそあなたの悪いことも言えると話して 2.3 時間人格否定を密室空間で受け続けるなど）などがある。虐待の被害者がすでに発症しているかもしれない精神疾患を悪化させないためにも、家を出てたり、家族と関係を断つための支援をして欲しい。

それから、このアンケートのように（性別欄に回答無しなどをつけるように）今後も LGBT 当事者がいる前提で取り組みを続けてほしい。
- 児童相談所の観察や保護等の強化
- 自らの子どもにはもちろんだが、他の子供のことも見て見ぬふりをしないこと。
- 189 以外にもう少し気軽に暴力について相談出来る場所があるといいと思う
- 親になるときに暴力や人権に対する教育を受けてほしい
- 自分が子供だったの頃、理不尽な暴力に対してどう思っていたか忘れないでほしい

子供は所有物ではなくて、一人の人間であることを忘れないでほしい
- 法改正に向けて動いて欲しいです。

（未成年に対する暴力の厳罰化）

「暴力はダメ！」といった周知だけでは難しい問題かと思います。

また、いじめ問題については「いじめ」というワードを使用して欲しくないです。言葉が軽く聞こえるので「暴行」や「傷害」といったワードを使用して欲しい。

Q10 こどもへの暴力（ぼうりよく）をなくすために、自分たちにできると思うことはありますか。

- ・ 被害者が加害者にならないために、暴力は NO と自分に言い続けること。
- ・ 子供側が今一度自分たちの権利を認識し、子供の側から大人に対してストップをかけることができるようになる。
それができるように学校で教育を行う必要がある。
- ・ 何かあったら、迷わず誰かに相談すること。
- ・ 暴力はだめだと、はっきり言えるようになることが大事
でも、どうしても暴力を振るったりごはんを用意しなかったりする大人(親)はいると思う
児童相談所の話をテレビや新聞で見ますが、大人(親)とこどものいざこざに、そんなに入ってくる
いのでしょうか
- ・ 相手の気持ち、立場にたって考えること
一回みるだけでも印象にのこりやすいポスターや資料を作成すること
- ・ 人の嫌がることはしない
- ・ 見かけたら注意する。危なければ通報する。
- ・ 友達に声をかける
- ・ 自分たちが親になった時にしないという意識を持てるような心がけ
- ・ まず自分が気をつける。プライベートでむやみに未成年者と関わらない。未成年者と関わる際に、
線引きをしっかりする。暴力性を自覚することから始める。
- ・ 子供と大人の感覚の違いをきちんと理解した上で大人になっていく
- ・ 身近な未成年者が（何かがおかしいかもしれない）と感じたときに相談できる信頼関係を築くこ
と
- ・ 教員が暴力的な行為をした時に、親や身近な大人に助けを求める。傷つく人がいるならば、大
人に相談する。
- ・ 暴力に関する相談を受けたら大人に相談したり、適切な相談機関を伝えられるようにすること。
- ・ 体罰や性暴力を自分自身がしないこと、そして、見かけたら適切な対応をとること。
- ・ こどもたちと遊ぶボランティア活動や、こども食堂など、自分自身も直接関わることのできるボラン
ティア
- ・ 暴力を受けている子どもが相談できるサイトや窓口に関する情報を SNS で広める。
- ・ 暴力された、身の回りで見聞きしたらすぐに相談する
- ・ 暴力についての理解を深める。
- ・ 限られていると思う。地域のこどもとの日頃からの何気ない挨拶。気づいたことがあったら相談、場
合によっては通報。1 番大切なことは自分を大切に、守ること。日本人はそれが難しく我慢しな
いと、これは普通のこと、相談が恥ずかしいなどがある。私もそんな日本人に寄り添える声掛けを

行える人でありたい。

- ・ 暴力はだめということをこどもはもちろん大人世代にも浸透^{しんとう}させること。
- ・ まず自分が絶対にやらない事と、そういった事を見聞きしたら、すぐに信頼^{しんらい}出来る大人に相談する等して行きたい。
- ・ いじめの場合は、学校で生徒主体の自治組織をつくる。事例：ある公立の中学校のハードコンタクトの活動
- ・ こどもだけでなく親でも自由に参加できるような「第三の居場所」を運営すること。
- ・ 見かけたら通報
- ・ 呼びかけ
- ・ おとなは、「猟奇^{りやうき}的なゲームや作品」をあまり見ない。教育関係者であれば「ゲームなどの教育目的の猟奇^{りやうき}的」を除き過激な作品や暴力的な作品の鑑賞^{かんしょう}はしない。

こどもへの暴力は、こどもの夢や希望を失う。夢や希望をのせた子どもたちの就労^{しゅうろう}や進学を後押しするために、今何ができるのかを幼保・小中高・高専^{こうせん}・高等専修^{こうとうせんしゅう}・特別支援学校^{とくべつしえんがっこう}で研究や研修を行ってほしい。おとなが暴力行為^{ぼうりくゐ}をすると、学校は荒れる。

- ・ 直接変わるかはわからないがポスターを作ったり学校の保護者とかが呼びかける。また、友達などが暴力を受けていたら助ける
- ・ 大人として、節度^{せつど}を守った距離（物理的にも、心理的にも）を保つ
- ・ 身の回り子ども達の変化や、様子をきちんと気にかける。

子どもへの暴力は子どもに良くない事が研究で示されるなど、医学的にも良くないことを多くの人に知ってもらうよう広める。

まずは身近な子どもを大切にする事。

子どもに暴力を振^ふってしまう親がいたら、親にも何か手助けが必要かもしれない。自分に出来る事としては、子育て世代の知り合いを出来るだけ孤独^{こどく}にしない事。

- ・ 例だが各教育機関の通報受付役の担当者に通報するなど第三者の手を借りるための環境構築^{かんきようこうしつ}を促す、当然、国が設ける通報電話も維持^{いじ}すべき。また子どもへの暴力で罪を犯した者への教育が十分必須であり、繰り返さない環境^{かんきよう}を作ることも重要である。
- ・ みたらすぐ通報すること
- ・ 自分が大人になった時にしない。また、そういう大人を育てられるように「なぜ暴力をふるうのか」を考え、そうしない教育を進める。
- ・ 私ができるのは、ACE サバイバーとしてのピアサポートおよび支援^{しえん}の提言^{ぎやうたい}です。どのような虐待^{ぎやうたい}経験をし、どのような場面で苦しんだのかを話せます。また、何があったら助かったのかを周囲に伝えられます。

また、私が誰かに暴力を振^ふるわないようにするために、人権^{じんけん}について独学でたくさんの勉強をし、とある分野においては暴力のない安心安全な環境構築^{かんきようこうしつ}のための教育までできるようになっていま

す。

- ・ 些^さ細^{さい}なことも気にかける。
- ・ なんでも話せる大人を目指す
- ・ なぜ子供^{こども}に暴力^{ばうり}を振^{ふる}ってしまったかを実際暴力^{ばうり}を振^{ふる}った人にアンケート、なぜ暴力^{ばうり}を振^{ふる}ってしまうのだと思うのかを大人や子供^{こども}に予想してもらうアンケート、一致^{いっち}していたら対策^{たいさく}、違^{ちが}っても認識^{にんしき}がずれてることがわかるのでそれの対策^{たいさく}
- ・ 暴力があるかと思った時の通報
- ・ 暴力を受けた時に相談できるような場所をつくったり、暴力を受けたらおかしいという知識を身につける